

# 母の 691 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

わたしの原風景②／とよかかずひこ 2  
耳で聞く小さなおはなし⑬「ホンのちょっぴり」／村中李衣、石川えりこ 3  
子どもは人と関わりながら、本を好きになっていく／代田知子 4  
新刊紹介／山口タオ、渡部泰弘 6  
おさんぽ自然観察⑦／いしもりよしひこ 7  
イラスト／スズキコージ



## 子どもと同じ気持ちになってみたら

中村桂子

子どもって天才だなあっと驚かずにおれませんか。

人間の子もだけでなく、うさぎの子もでも、へびの子もでも、どんなものでも、子どもというのは…。

「ぞうさん」でよく知られる詩人まど・みちおさんが100歳の時に日々の中で語られた言葉の1つです。へびの子もには残念ながら出会ったことがありませんが、「子どもは天才」というのは私も感じています。

昨日も買い物に行こうと外に出ましたら、門の前の道に座り込んでいる小さな男の子がいました。少し離れて置かれたベビーカーの脇で、若夫婦がちょっと困ったような笑みを浮かべながらその様子を眺めています。子どもの手にあるのは落ち葉です。私にとってはお掃除をしてもしても落ちてくる悩ましい相手を1つ1つ拾って楽しそうに眺めているのです。一緒に座ってお話をしたかったのですが、お父さんお母さんに迷惑がられてもいけないので遠慮しました。あの坊やは何を見て、何を考えていたのでしょうか。眼がキラキラしていました。

新型コロナウイルスのパンデミックや異常気象に悩まされる日々が続いている原因の1つが、私たちが便利さを求めて急ぎ過ぎたことであるのは確かです。実は、ウイルスも気象も複雑でわからないところだらけです。ウイルスや気象だけでなく、自然はわかっていることの方が少ないと言ってもよいのです。それなのに私たちは、わかったところだけの知識で急速に新技術を進めてきました。まどさんの100歳の言葉には、こんなものもあります。

(変わった色合いに紅葉した落葉を手にして)

そうかあ、この葉っぱには、こうなる理由があったんだな…。

—その理由をみつけたくて 書くのが、「詩」なんです。

ベビーカーを降りて落ち葉を見つめていた男の子も、同じだったのではないのでしょうか。まだ話せる言葉が少ないので、「理由」などとは言わないでしょうけれど、自然のふしぎ、自然の大きさを感じとる点では100歳の詩人と同じです。100歳の詩人が子どもの心を失っていなかったとも言えますね。

今私たちが向き合っている困難を乗り越えられなければ、子どもたちの未来がないかもしれないという厳しさを感じます。さあどうしましょう。この問いへの答えは、私たち大人が子どもたちに学び、子どもたちと同じく自然に素直に向き合う気持ちを持つことから得られるのではないかと思います。いかがでしょうか。

# わたしの原風景

25

とよたかずひこ

絵本作家



毎朝、仕事場に向かう山手線の車内で見かける少女がいる。

背がスラリと伸びていて、制服なのであろう、アゴひも付きの帽子とランドセルがどうにも似合わない。おそらく小学最上級生だと思いが、すっかり大人びた雰囲気だ。日常の私服に戻ったときに、この少女は、まわりから本来の「こども」扱いをされているのだろうか、といらぬ心配をしてしまう。

私は逆に母親から「幼児」扱いをされ続けた(苦笑)。

一九四七年、戦後のベビーブーム時代の申し子のひとりとして仙台市で生まれ、育った。後に団塊の世代と称されて何かと話題になる層の一員である。

集団生活の第一歩が小学校入学。一クラス六十人で、十クラスあったから同学年は六百人ということになる。その中で私は「一、二を争うおチビさん」だったようだ。なにせ六年間で一度も「前へならえ」を経験しないまま卒業した。ずっと腰に手をあてての一番前。校庭の地面につつまるわが影はいつも鮮明だ。

その小さいことをいふことに、母は私をいつも幼児扱いにして日々にしてきた。小学校に上がれば、当然、交通機関にはこども料金を払わなければならない。なのに払ってくれないのである。

当時、乗合バスには車掌さんも乗っていて、運転手に「発車オーライ」と合図をして出発する。バスが走り出すと、乗客の間をまわって行き先を聞き、切符を切ってお金を受け取る。

車掌さんが近づいて来た。ドキドキドキ……。

何事もなく、今日も車掌さんが通り過ぎていった。

隣にいた母の顔を、私は見えない。

そんな負の原風景もまんざらではないようだ。四十年後、『でんしゃにのって』(アリス館)という作品で「あつ、きつぷー」というセリフを車中の動物たちに語らせて、その想いを結実させた。

切符を持って一人前。トヨタ少年が自立したのは六年生であった。

耳で聞く小さなおはなし⑬

# 「ホンのちよっぴり」

文・村中李衣 絵・石川えりこ

## この道・その道・ほかの道

学校から家にもどる道に、何よりこわい場所があった。黒くて大きな犬の（ギャング）が待ち構えている場所。ギャングは、わたしがこっそりつけた名前。

帰りの時刻になると、庭の柵を飛び越え、ちぎれんばかりにリードを引っ張りわたしに噛みつきをする。

「だいじょうぶ、道の端っこを通れば噛みつかれないから早くおいで」

ほえられても友だちはすいすい通り抜け早く早くと手招きする。でも、そう言われれば言われるほど、わたしはカチンコチンに固まり、動けない。

結局いつも誰かに手を引っ張られながら泣き泣き力二歩きで脱出することになる。毎日毎日その繰り返し。

やがて友だちの中にわたしのお助けチームができあがり、立ち去り際にギャングにキックをお見舞いする勇者まで現れた。そしてわたしはいつのまにか「ひとりで通れなくても仕方ないかわいそうなおひめさま」になっていった。

ところがある日、友だちの中でいちばんおとなしいはるこちゃんが「なんでほかの道さがさないの？」とぼつり。他の子たち



は「いじわるいっな」とか「かわいそうじゃん」とか庇（な）つてくれたけど、「ほかの道」という言葉が、わたしの心にびびんときた。

そうか。ギャングのせいじゃなくてわたしがこの道を選んだんだ。

『おおきくなるっていうことは』に、大きくなるっていうことは、前より高いところに登れるってことだし、高いところから飛び降りられることでもあるけど、飛び降りてもだいじょうぶかどうか考えられることでもあるって、書いてあった。

そういう何気ないようできて大切なことは、ちゃんと子ども同士のかかわりの中で自分で見つけていくもんなんだなあ。

あのあとわたしは、ほかの道を選ばなかったっていうことが見えない力になった。へっぴりこしただけとギャングの横を自分で通り抜けられるようになったのだ。



おおきくなるっていうことは  
中川ひろたか・文  
村上康成・絵

# 子どもは人と関わりながら、 本を好きになっっていく

## 代田知子

ここ数年で、私たちの社会では、いたるところで、デジタル化・オンライン化が進みました。そのことは、子どもや子どもの本に、どのような影響を与えるのでしょうか。そして、子どもたちに本を手渡す大人は、どう向き合っていきたいのでしょうか。埼玉県三芳町立図書館館長・日本子どもの本研究会会長の代田知子さんにお話を伺いました。

しろた ともこ ● 1956年東京生まれ。埼玉県三芳町立図書館館長。日本子どもの本研究会会長。読み聞かせ、ブックトーク、ブックスタート等の実践を通し、子どもの本の普及・研究に努める。著書に『読み聞かせわくわくハンドブック』（一声社）がある。

昨年三月中旬から約三カ月間にわたって私たちの図書館は休館になりました。五月中旬から、予約資料の貸出だけは再開したので、なんとか子どもたちに本に興味を持ってもらいたいと思い、ブックトークのオンライン配信をしました。

自分たちでチャンネルを用意し、表紙を見せながら本を紹介することで、物語の楽しさを子どもたちに届けようと思いました。大人からは好評でしたが、子どもからの反応はいまひとつでした。

その時、感じたのは、「子どもたちは人とじかに関わる中で本を読みたくなるのだ」ということでした。

たいていの子どもは、大人と違って、もともと読みたい本を持っていません。学校で友達の本を読んでいるのを見たり、

図書館を「から」がらして手当たり次第に本をさわったりする中で、本を見つけ、読書への意欲を高めていくのです。そこで大切になってくるのが、じかに本を受け渡してあげる、身近な人の存在なのではないでしょうか。

たとえば、リアルブックトークや読み聞かせで、大人が熱意をこめて読んであげると、本が苦手な子ども次からは自分で読んでみよう、という気持ちになるのです。図書館のフロアで、うろうろしている子に「どんな本、探してるの?」「と声かけしてあげて、その子が探しているタイプの本をおすすめすると、パッと手にします。

手に取るのが、紙の本だということも大切だと思います。子どもたちは本を持

つと、まずはばらめくり、本の形や字の大きさ、絵などを確認します。そして、自分の好みや読書力に合っているか自分で判断するのです。

\*\*\*

緊急事態とはいえ、全国で三カ月もの間、多くの図書館が閉まっていたのは、大変なことでした。地域の本屋さんが頑張っていたのは救いでしたが、私たちの町のように本屋がほとんどない地域もあります。子どもたちが本にふれる機会がなくなりそうです。

その期間は、私たち図書館員にとっても試練でした。図書館を閉めている間、書庫の整理ははかどりましたが、利用者

の方と交流して、じかに本を届けるという図書館の根本的な役割を果たすことはできず、職員の元気はなくなりました。早く図書館を開館して本を届けたい、と強く思いました。

再開後、貸出業務をしていると、大人も子どもも、どんどん本を借りていきました。たくさんの方が待っていてくれたのだと実感して、私たちもうれしかったです。

三芳町立図書館では、いち早くブックスタートも再開しました。ブックスタートとは、〇歳児健診などの機会に、絵本の読み聞かせの「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動です。人とのつながりが薄れがちな時だからこそ、多くの親御さんが喜んでくださいました。

人は、人との関わりを介して本とつながり、本との関わりを介して人とつながる——改めてそのことを感じました。

いま貸出力ウンターには飛沫防止のビニールがかかっていますが、子どもたちは気軽に図書館員に話しかけてきます。そこで、「あなたが好きそうな本が出たわよ」と教えてあげると、「どれどれ？」と、うれしそうに聞いてきます。だれかと交流したい、いっしょに感動を共有したい、という子どもたちの気持ちはコロナ禍でも変わらず、むしろ強くなっているように思います。

\*\*\*

デジタル化、オンライン化を推進する動きもより活発になっていきます。もちろん、活用できるところは活用するべきでしょう。ですが、ブックトークのオンライン配信をしていたとき、画面越しだと熱意が伝わらず、他人事になりがちだと思いました。ひょっとしたら、オンラインだと、リアルの数十分の一くらいしか伝わらないかもしれません。

リアルの中でブックトークをしていると、その場にいる子どもたちの目を見て、話しかけることができます。みんなが話に疲れてきたら、手遊びする、といったよ



イラスト/スズキコージ

うに状況に応じて進めることができます。ところが、画面越しだと、子どもがしっかりと聞いているかどうか、理解しているのかが分かりません。こまやかなフォローが難しいのです。

いま学校現場でもオンライン化・デジタル化が進んでいますが、急ぎすぎるとちゃんとフォローを受けられない子どもたちが、勉強や人間関係から取り残されてしまつかもしれません。子どもにたすさわ

る人間は、デメリットも、よく考える必要があるのではないのでしょうか。そして、それを現場の声として、多くの人に届けることもしていきたいと思えます。

共感を生みにくいという点では、子ども向けの電子書籍も厳しいと思います。いま、行政は、図書館に電子書籍をいれようと熱心に予算を組んでいます。そこで、当館でも、電子書籍を入れるかどうか検討するため、いろいろな話を聞いて

みたことがあります。子ども向けの電子書籍で人気があるのは、絵が動く絵本や、音が出る絵本だそうです。世界の虫の声や、楽器の音が聴ける本には資料的な価値はあるでしょう。でも、物語の楽しさに結びつくとは限りません。子どもが本に親しむツールとして本当に役に立つのでしょうか。

文字を読むようになった子どもは、いろいろな本を読んでもという訓練を経て、徐々に読書力（描かれた世界をイメージして楽しむ力）を付けていきます。読むことに集中し、多少難しくても読み続けようとする忍耐力も必要となります。読書力が身につけている大人だったら電子書籍でも構わないかもしれませんが、本を好きになる途中の子どもたちが、ゲームやYouTubeも楽しめるタブレットで電子書籍を渡されたらどうなのでしょう。さあ読もう、とはなかなかならないように思います。やはり、一緒に楽しむ身近な人との関わりや、共感の喜びといった支えが大切になるし、それには手触りがある紙の本が適していると考えています。

これからも、子どもたちとしっかりと向き合い、紙の本を手渡していきたいと思えます。

願ったり、かなったり

山口  
タオ

子どもの頃、かなえない願いがある時にはどうしましたか。  
夏だったら七夕様の短冊に書けます。冬だったらサンタクロースに注文  
できます。受験の時は神社の絵馬かな。あとはちょっと大変ですが、流れ  
星を探すしかありません。

でもこの本に登場する子どもたちはラッキー！ 願いをかなえる商品が  
自動はんばいきで買えるんです。しかもはんばいきの方から飛んでくるん  
ですから。

ただしほんとうに願いがかなうかは、その子の使い方しだい。とんでも  
ない目にあつた子もいるので、注意してください。

収録の3話「ジャンケン必勝てぶくろ」「社長さんセット」「アニマルキ  
ャップ」で、子どもたちの心に秘めた願いがかなつたのか、ぜひ読んでみ  
てください。

ぼくはショートショート出身なので、予想のつかない展開、巧妙な伏  
線、印象的な結末が持ち味。大人読者も存分に面白く読めますので、親子  
で楽しんでもらえたら、とても嬉しいです。

第2巻『算数すきすきメガネ』は2022年3月刊行です。お楽しみに！  
待ちきれない方は、星新一ショートショート・コンテスト最優秀作も収  
録した拙著『白のショートショート ふられ薬』（講談社）をどうぞ。

(やまぐち たお/作家)



願いがかなう自動はんばいき  
ジャンケン必勝てぶくろ

山口タオ/作  
たかいよしかず/絵  
定価1100円(本体1000円+税10%)

「ハッタツショウガイ」  
かもしれないあなたへ

渡部  
泰弘



ひまりのすてき時間割

井嶋敦子/作  
丸山ゆき/絵  
定価1430円  
(本体1300円+税10%)

最近、新聞にもテレビにもネットにも、「ハッタツショウガイ」はあふ  
れてる。だから誰もが知ってる言葉になった。でも、その中身を誰もがき  
ちんと分かってるかという、だいぶ怪しいんじゃない？ と私は思う。  
みんな「自分とは関係ない、対岸の話」って思っていない？

実はそうじゃなくて、金手小6年1組の橋本ひまりのように、あなたの  
身近に意外という。そして、もしかしてあなただってそうかもしれない。  
ただ気付いてないだけ。

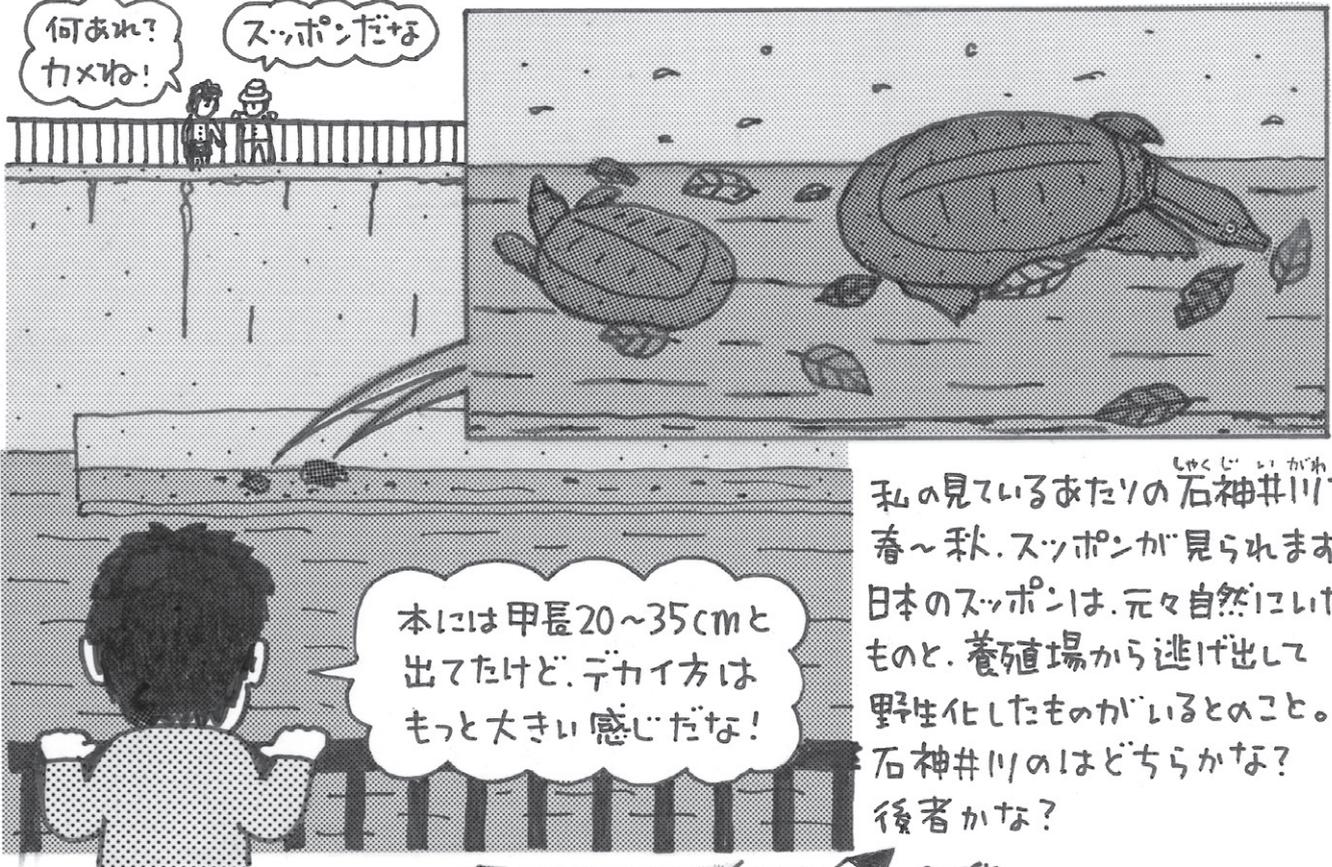
それは特別な事じゃなくて、誰でも1人1人が違う、その違いがちょっ  
と大きいだけ。その違いを「オマエハワタシチガウ」なんて言わずに、  
ほんのちょっと気持ちを想像してあげて、ほんのちょっと工夫してあげた  
ら、それでうまくいくんじゃない？ そしたらみんなハッピーじゃない？

そんな事をひまりは伝えてくれているのかも知れないし、「ほら、私み  
んなと違ってちょっと変だけどハッピーだよ」というひまりの顔を見てい  
ると、「あなたは他の人と違うからこそひまりなんだよ、それでいいんだ  
よ」ってにっこり笑って伝えたい。ひまりと出会った人がそんな事を  
感じてくれて、ちょっとだけ周りの人の気持ちを想像して、それが周りの  
人にもつながって行って……。そしていつの日か、「ハッタツショウガイ」  
なんて言葉を使わなくて済む世界になったらいいなあ。

(わたなべ やすひろ/秋田県立医療療育センター小児科)

# おたんぼ 自然観察 ⑦

いしもり  
よしひこ



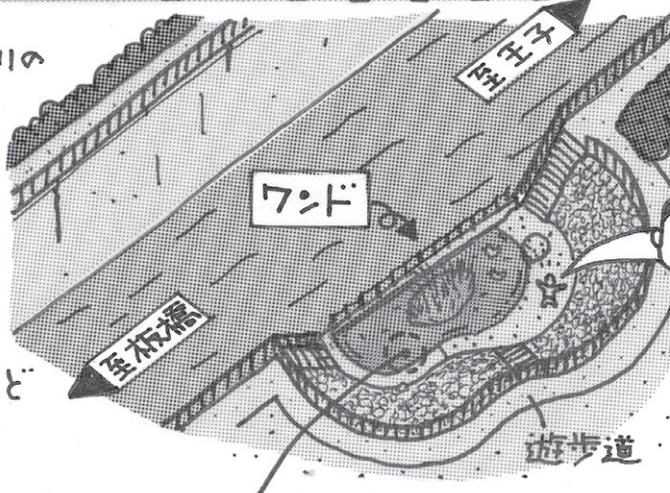
何あれ?  
カ×カ!

スッポンだな

本には甲長20~35cmと  
出てたけど、デカイ方は  
もっと大きい感じだな!

私の見ているあたりの石神井川で  
春~秋、スッポンが見られます。  
日本のスッポンは、元々自然にいた  
ものと、養殖場から逃げ出して  
野生化したものがあるとのこと。  
石神井川のはどちらかな?  
後者かな?

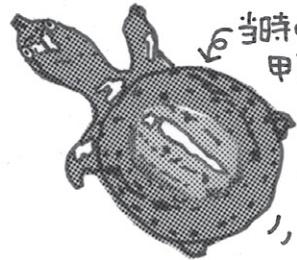
スッポンは石神井川の  
私の散歩コースの  
どこでも見られる  
わけではなく、  
ワンドをはさんだ  
あたりだけ。  
行動範囲はそれほど  
広くなさそう。



「ワンドとは川の本流と繋がって  
いるが、河川構造物などで囲わ  
れて池のようになつた地形」(Wiki)

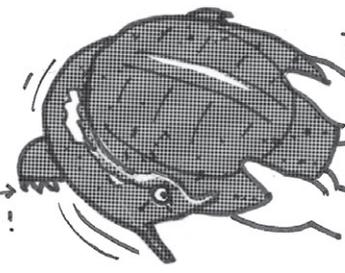
左上の絵のように石神井川は  
護岸されていて、川面に近づけ  
ないのだけれど、ワンドでは  
水のそばまでいけます。

もう20年以上前ですが、ワンドのこのあたりで  
スッポンの赤ちゃんを3匹みつけて捕らえ、  
しばらく飼ってみました。幼体の腹は  
赤い



爪も  
とても  
スリドイ!

でも、どんどん成長し、甲長20cmくらいに  
なると食いきれなくなつて、もといつた  
ワンドに放してきました。



こわっ!

いしもりよしひこ (石森愛彦) / 猫と虫と音楽が大好きなイラストレーター。著書に「うちの近所のいきものたち」【昆虫って、どんなの?】(ハッピーオウル社)、共著に「ちいさないきものずかん」シリーズ(童心社)、「かなへび」(福音館書店)、「素数ゼミの謎」(文藝春秋)などがある。

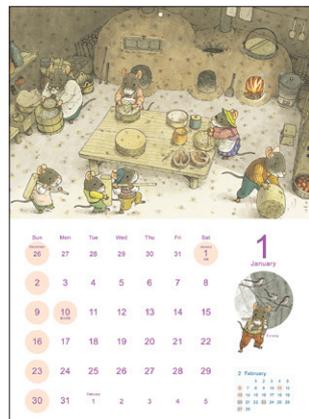
# 12月の新刊図書！

童心社のキャラクターグッズ

## 2022 14ひきのカレンダー

いわむらかずお／作

定価1760円(本体1600円+税10%)



3世代にもわたって愛されるロングセラー絵本「14ひきのシリーズ」のカレンダー。毎月、森で暮らす14ひきを描いた、色彩豊かな絵を楽しめます。「カレンダーシール」つきで、家族のイベントを楽しく書き込めます。

単行本図書

## 空から見える、 あの子の心

シェリー・ピアソル／作

久保陽子／訳

平澤朋子／絵

定価1650円(本体1500円+税10%)



休み時間にひとりで校庭を歩き回るジョーイ。その行動の意味に気がついたエイプリルは……。

息子が乗り物に関心を示した一歳前に、夫が店頭で選んで買ってきたのが『りくのりものえほん』。想像以上に食いつきが良く、毎日のようにペラペラめくり、ポロポロになるほど。図書館で借りてきた『うみのりものえほん』も気に入ったようなので、購入。何度も「読んで」ともってきます。分かり易いしかけと、鮮やかな色、爽やかな絵柄が良いと思います。

(兵庫県 Y・N 四二歳)



のりものしかけえほん  
りくのりものえほん  
うみのりものえほん  
いしかわこうじ／さく  
定価1045円(本体950円+税10%)

読者の声

一歳の息子に「もしもし」と読み聞かせると思議そうな顔でじっとみつめてきます。この絵本を読んでから、パパやママが電話をかけている姿を見ると、ニコニコ笑顔でよってくるようになりました。

(石川県 S・N 三三歳)



松谷みよ子 あかちゃんの本  
もしもしおでんわ  
松谷みよ子／ぶん  
いわさきちひろ／え  
定価1540円(本体1400円+税10%)

高齢者の多い社会でおこりうる出来事、ペットを飼うことの問題など、読みながら、あるあるこんなこと、と思いました。サムくんは青いハンカチがお気に入りですが、娘が小さな人形が好きだったことを思い出しました。小学校で絵本の次に読むおはなしとして最適ですね。

(広島県 K・K 六六歳)



だいき絵本  
めいたんていサムくん  
那須正幹／作  
はたこうじろう／絵  
定価1210円(本体1100円+税10%)

2021年12月15日発行(毎月刊)

母のひろば 第691号  
定価50円(年600円/送料とも)

発行所: 童心の会  
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6  
株式会社童心社内  
電話: 03(5976)4181  
03(5976)4402(編集)  
編集発行人: 大熊悟  
童心社のホームページ:  
<https://www.doshinsha.co.jp/>  
デザイン: 谷口広樹・扇麻子

### 定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。



### あとがき

●日が短くなるにつれ憂鬱な気分になってきます。しかし東京で最も早い日没は12/7、16時23分。後は着実に日没が遅くなっていくわけで少しだけ明るい心持ちになってきます。さしたる理由はなくとも来年に向けて元気を出し、できるだけ生身で他者と関わり世界と触れ合い、子ども達のリアルな宝物にしてもらえる(紙の)本をつくっていただけたら願っています。◎

●特集記事のお話を代田知子さんに伺いに行った際、三芳町立図書館でのブックスタートの様子を見学させてもらいました。感染症対策で距離を保ちつつも、4か月の赤ちゃんは絵本にくぎづけになり、ページをめくる度に全身で反応していました。人との関わりと、紙の本を通したぬくもりのある「体験」は、年齢を問わず大切なことだと実感しました。◎